

地震調査研究推進本部 政策委員会
第2回 総合的かつ基本的な施策の評価に関する小委員会
議事要旨(案)

1. 日時 平成17年6月27日(月) 15時00分～17時00分

2. 場所 (財)地震予知総合研究振興会(千代田ビル 5階)会議室
東京都千代田区猿楽町1-5-18

3. 出席者

[主査] 樋口公啓 東京海上日動火災保険株式会社相談役

[委員] 片山恒雄 独立行政法人防災科学技術研究所理事長

小泉成史 (株)テレビ朝日報道局コメンテーター

林 春男 京都大学防災研究所教授

[政策委員会・地震調査委員会]

岡田 恒男 政策委員会委員長

津村建四朗 地震調査委員会委員長

長谷川 昭 調査観測計画部会部会長

[関係省庁]

尾崎 友亮 内閣府防災統括官付地震・火山対策担当参事官補佐

鈴木 恭太 総務省消防庁防災課

畠山 孝 経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長補佐

関田 康雄 気象庁地震火山部管理課地震情報企画官

宇根 寛 国土地理院地理地殻活動研究センター研究管理課長

渡辺 一樹 海上保安庁海洋情報部技術・国際課地震調査官

[事務局]

西尾 典真 文部科学省研究開発局地震・防災研究課長

横山 博文 文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査管理官

中島 秀敏 文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画
官

加藤 晃一 文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災研究地域連携
推進官

4. 議事要旨

- ・前回議事要旨について、事務局案（資料 評2 - (1)）のとおりとされた。

（実績評価書について）

- ・総合基本施策の第2章の中では、様々な関係機関との連携に関することが非常に重要であると位置付けているが、評価書案の実績を見てみると、そのことについて、直接的に答えていないのではないかという委員からの意見があった。これに対し、基本的には、実績として挙げることのできるものを記述したところであり、十分対応がなされていないと思える状況をどうみるかは、まさに今後の評価の中で御検討いただきたい旨の回答が事務局からなされた。

（新潟県中越地震の際の地震調査研究の成果について）

- ・地震調査研究の成果が出ていることは分かるが、防災にどう活かすのかが今後の課題となるという意見が出された。
- ・地震調査研究の成果はあくまでも事後に分かったことで、防災に活かせるのかという委員からの意見があり、これに対し、事後の詳細な観測調査で新潟県中越地震の発震メカニズムの状況が把握でき、今後の地震調査観測の発展につながるものと考えられるとの意見が出された。
- ・基盤的調査観測網の整備は、地震の姿をすばやくつかむことができたことに寄与しているが、今後は、これらの情報を如何に社会が反応するようなものとして出すことができるかが大事であり、そのような取組が研究の側になお不足しているのではとの意見が出された。

（地震調査研究に関するロードマップについて）

- ・資料 評2 - (5)「地震による被害軽減に向けた取組について」は、今後、当小委員会で評価のための共通理解を得るために作成するものであるとの説明を事務局が行い、当該資料に関する委員間の認識を確認した。
 - ・思い切ってゴールの設定を22世紀前半にも想定される東海・東南海・南海地震と関東地震の発生のシナリオを乗り越えるために何を進める必要があるかといった大きな目標を立てることもできるのではないかという意見が出された。
 - ・地震調査研究に関する事項間の関係を如何に繋げていくのかを描くのが大事であり、それを行えば、現在取組が弱いところもはっきりするのではないかという意見が出された。また、当該接続に関しては、全てを細かく繋げるのではなく、もっと大つかみでよいのではないかと意見も出された。
 - ・地震調査研究は、細かく表示する方が良いが、防災に関する事項は、もっと大まかでも良いのではないかと意見が出された。
-
- ・次回、小委員会については、本日の資料 評2 - (5)を確定させること、また、評価書案の「進捗状況評価の判断基準」について、審議することが確認された。